

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立隅田小学校
校長名	藤井 洋子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・国語科では、思考・判断・表現の観点において、全学年で目標値を上回っており、特に 3・4 学年は 10 点以上上回った。 ・社会科では、思考・判断・表現の観点において、目標値を 3 点以上上回った。 ・算数科では、知識・技能の観点において、5 学年以外は 7 点以上上回った。 ・英語では、知識・技能、思考・判断・表現の両観点において、目標値を 5 点以上上回った。	・国語科では、漢字の書きや作文などの「書く」問題が課題である。 ・社会科では、資料を見比べて考えたり資料から必要な情報を読み取ったりすることに課題がある。何を問われているのかを正しく理解できていない。 ・算数科では、考えを記述する問題や、複数の情報を整理して考える問題に課題がある。 ・理科では、基礎・基本の定着に課題があり、正答率が 5 割を下回る問題も多くある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・学習意欲の数値が比較的高い。学習に対して前向きな意識をもっていることが分かる。 ・学級の規範意識が高い。落ち着いた環境のもと、安心して生活できている児童が多いことが分かる。	・ほとんどの学年で学習習慣の観点において全国平均を下回っている。特に学年が上がるにつれて低下する傾向が見られる。 ・生活習慣において、全国平均を上回ってはいるものの低い学年もある。朝食やメディアの使用など、課題が見られる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・タブレット端末の活用が進んでいる。児童もロイロノート等を使いこなし、学習に活用することができている。 ・ペアやグループでの学び合い活動にとっても意欲的である。友達と考えを交流し、学びを深めようとする姿勢が多く見られる。	・既習事項をつなげて考えることが難しい。その場では理解できていても、学習が積み上がっていかない。 ・全教科に共通して「自分の手で書く」学習に課題がある。タブレット端末の活用とのバランスを考えて指導していく必要がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 確かな学力の定着

① 計画的で分かりやすい授業づくり

- ・「学習のきまり」に基づき、基本的な授業展開を統一する。めあての提示・自力解決・友達との共有・問題の演習・まとめ・振り返りの内容で構成した授業を、全学年で展開する。
- ・既習事項の理解と定着をより確実にするために、授業導入時等に本時で活用する既習事項の振り返りを反復して行う。その際、ふりかえりシートや問題データベースを積極的に活用することで、さらなる定着を図る。

② 補修教室の実施

- ・主に CD 層の児童を対象とした少人数体制での補修教室を、放課後及び夏季休業中に実施する。算数科を中心都市、習熟が不十分な内容を繰り返し取り組ませることで定着を図る。

③ 全校漢字計算テストの実施

- ・年に 3 回、東京ベーシックドリルを活用した全校漢字計算テストを実施する。基礎基本の徹底と、児童の意欲向上を図る。

(2) 教員の授業力向上

① 教員の相互授業参観・OJTの実施

- ・教員をチームに分け、年に 3 回相互参観の時間を設定する。チーム内でめあてを立て、成果と課題、改善策について検討する。
- ・主任教諭を中心に、教員の得意分野を生かした OJT 研修を計画、実施する。

② 校内研究の推進と展開

- ・研究主題「主体的に学ぶ児童の育成～わかる・できるを実感する算数科の授業づくり～」に向けて研究を進めている。研究授業後には毎回、事後授業に向けた改善指導案を全教員で検討することで、より児童の実態に応じた授業づくりを目指す。

(3) 学習習慣定着への取り組み

① 「早寝・早起き・朝ごはん」による規則正しい生活習慣、「家庭学習の手引き」に基づいた家庭学習習慣確立のさらなる呼びかけ。

② 個別指導の充実

- ・学習習慣について課題が多い児童に対しては、放課後補習の時間等を活用し、学習習慣の定着に向けた個別指導を行う。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・知識・技能、思考・判断・表現の観点において、全学年目標値を上回る。
- ・各学年、国語科・算数科における DE 層の割合を 20%以下にする。
- ・各学年の実態に応じて、社会科・理科における DE 層の割合を 10%程度減少させる。